



STEP UP

【発行】税理士法人 TACHIBANA
〒832-0824 福岡県柳川市三橋町藤吉525-1
TEL.0944-74-1915 FAX.0944-74-1004
info@tachibana-cpa.com
<http://tachibana-cpa.com>



ごあいさつ

今年の梅雨も、南九州を中心に過去の経験が全く役に立たないような大雨で、甚大な被害をもたらしています。被害に遭われた方々には、心よりお悔やみ申し上げます。九州北部の梅雨入りは観測史上一番遅い梅雨入りで、今のところ大きな被害はありませんが、梅雨前線の北上により、想像もつかないような大雨に襲われるのではと心配しているところです。

さて、今回の第25回参議院議員通常選挙の争点の一つに「年金問題」があります。全ての国民が公的年金に加入する国民皆年金制度は1961年に創設されました。国民皆年金制度創設当時の時代背景は、65歳以上の高齢者1人を20歳から64歳の9人で支える「胴上げ型」の人口構造で、家族形態も、親と子の世帯や祖父母を含めた三世帯世帯が中心でした。経済も、10%を超える経済成長率で今では考えられないようなものでした。このような時代背景の下で制度設計された公的年金制度では、現役世代が支払う保険料は、その時の年金受給者に充てられる「賦課方式」を採用し現在に至っています。しかし、多くの人は、私的年金制度

のように、現在支払っている保険料は、自分が将来受け取る年金の積み立て「積立方式」と思っているように感じます。「積立方式」は、急激なインフレや給与水準の上昇により積立金の価値が目減りしてしまうといったことや、株価の大幅な下落や為替の変動などの影響で、積み立てていた年金の運用結果次第では、積立金が減少し将来受け取る年金額が減少することにもなりかねないと言ったことから公的年金制度には採用されませんでした。

現在のように、65歳以上の高齢者1人を20歳から64歳の3人で支えなければならない「騎馬戦型」の人口構造では、「賦課方式」で年金の給付水準を維持しようとすれば、現役世代の保険料負担を増やすか公費負担を増やすしか方法がありません。公債収入に頼っているような日本の財政の下では、いずれの方法を採用しても現役世代への負担の押し付けだと主張する人もいます。しかし、社会保障制度改革国民会議報告書の「世代間の損得論」と高齢者向け給付の持つ「現役世代のメリット」の中では、年金制度が十分成熟する以前は私的扶養（高齢者など働くことができない人を子や家族、親

族で養うこと）が中心だったが、年金制度などの社会的な仕組みにより、高齢世代等の生活保障を行うこと（社会的扶養）は、子や孫の負担を軽減し現役世代にもメリットがあると主張しています。

論語に「民は之に由らしむべし。之を知らしむべからず。」とあります。現代語の一般的な解釈では、為政者を信じ付いて行こうと民に思わせることは大事だが、政策を民に理解させる必要はないという意味だそうです。現代社会でも政府と国民では知りうる情報の質と量も違うことから、確かにそのような一面もあるかもしれませんが、我が国は主権在民です。私は、年金問題一つをとっても、政府は、国民にその政策やその基礎となっている考え方をきちんと伝え理解させる努力が不足していると思います。また、国民もマスコミの報道に左右され、その政策を理解し、政策を判断する努力に欠けていると思うのですが如何でしょうか。

もうすぐ暑い夏がやってきます。熱中症には十分注意して頂き、楽しい夏を過ごして頂ければと思っています。

代表社員税理士 立花洋介

輪廻について

真宗大谷派 法恩寺住職 益田恵真

about the endless rebirth

輪廻(りんね)とは、一般的に生あるものが生死を繰り返すことをいい、生死(しょうじ)とも転生(てんしょう)ともいわれます。よく知られている六道輪廻は、生あるものが地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人・天の六道(六趣)を生まれかわり死にかわりしてめぐることをいいます。「六道」の「道」は世界・環境の意味です。この思想は仏教の専売特許のように考えられていますが、じつはインドに古くからある思想で、仏教の開祖ゴータマ・ブッダ以前のヴェーダ文献に端を発するといわれています。それは現在に至るまでヒンドゥー教の中心的な思想として、インド文化に大きな影響を与えているばかりでなく、東南アジアの諸国や中国・日本にも重大な影響を及ぼしています。

この思想は、善因善果、悪因悪果という業報の思想と結びつき、善行を積めば安楽な世界に、悪行を行えば苦しみの世界に生まれ変わるという考え方によって、善をすすめる悪を戒めるという倫理観を育んできました。また一切の生き物を先祖の生まれかわりとして父母兄弟のように慈しむという、平等な慈悲の観念をも育んできました。

インドの人びとは輪廻を際限なく繰り返される生存の苦しみと考え、それから解脱することを人生の目的と考えましたし、現在でも基本的にはそうです。このような考えは、仏教以前からあるウパニシャッドと呼ばれるバラモン教の文献にその原型が見られます。その一つである「ブリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド」という書の中で、ヤージュニャヴァルキヤという哲人は、「人間は愛欲より成り、愛欲に基づいて為された意図と行為こそが輪廻の原因である」と述べています(この愛欲という語は、現在使われているような男女間の欲望の意味に限定されず、より広い意味で用いられており、端的に人間の欲望全般を指しているようです)。したがって、人は愛欲を離れることによって生の絆から脱し、輪廻をこの世で終結することができるのです。

仏教ではどうでしょうか。ブッダ(目覚めた人)と称される釈尊は、やはりインド古来の輪廻思想を受け入れ、輪廻より解脱することを説いています。仏教最初期の経典「スッタニパータ」には、次のように輪廻の原因は愛執であると説かれています。



「愛執を友とする人は、この状態からかの状態へと、永い期間、[現に]輪廻して、輪廻を超えることがない」(「スッタニパータ」早島鏡正訳)

したがって、輪廻からの解脱は愛執を離れることによって成り立つとされます。この愛執の原語であるパーリ語のタンハー(taṆhā)は、渴愛・妄執とも訳され、ヤージュニャヴァルキヤのいう愛欲とほぼ同じ意味です。同じく「スッタニパータ」には、

「生存に対する愛執を絶ち、心の静まった修行者は、生死輪廻を超えている。彼に再生はない」(同上)

とあります。再生がないということはこの世が最後の生であるという意味です。またこの生存に対する愛執の根底には無明があると説かれます。無明とは「智慧(明察)がないこと」であり、現に自分を迷わせている(輪廻させている)原因に対して無知であることです。たとえば同じ経典に次のように述べられています。

「この状態からかの状態へと、くりかえし生死・輪廻を受ける人びとは、その趣く境界が無明にのみ存する」(同上)

「この無明とは、実に大いなる迷妄である。それによってこの永い輪廻が始まっているのである。しかしながら明知に達した者たちは、再生を受けることがない」(同上)

釈尊の教で注目すべき点は、愛執を離れることと明知に達することが、ともに輪廻を離れるための要件として語られていることです。それは愛執を離れることと智慧の獲得が等価であることを物語っています。仏教では智慧

の本質を「断」と定義します。断とは輪廻をそのもとから断ち切るという意味です。ブッダ＝目覚めた人の智慧こそは、人びとに愛執を離れさせ、無明から明知へと導く智慧なのです。

では、このあくなき生存への欲望を離れる、あるいは絶つとはどのような事態を指しているのでしょうか。それはまず人びとが無明とそれに基づく愛執によって、この世で迷いを重ねてきたということを知ることから始まります。人は自分の心を対象として見る智慧をはじめから持っていません。あくなき生存への欲望は無自覚的であり、自己中心的な見解、すなわち仏教でいう「我」に基づいたものの見方を人間にもたらしめます。それは自己保身のための好悪・善悪の判断となって現れます。その判断に基づいて人間は意図し行為しますが、その結果は必ず自身に帰ってきます。

たとえば今日社会的問題にまでなっているギャンブル依存症はそのよい例でしょう。たまたまギャンブルで大儲けすると、その時の快感が忘れられず、いくら負けが込んでも大当たりを狙って借金を繰り返し、気が付けば莫大な債務を背負う羽目になり、その返済に追われて家族や知人にまで迷惑をかけるという例は、身近なところでもよく耳に聞こえるところ。ギャンブル依存症の人は、短いサイクルで天に昇ったり畜生と化したり餓鬼道に落ちたり地獄に落ちたりを経験しますが、最終的に彼を待ち受けているのは債務地獄(!)なのです。彼がその悪循環から抜け出せないのはなぜでしょうか。それはギャンブル行動が習慣化することによってその人の業となり、頭ではいけないことだとわかっていても、身体の欲求を制御することができなくなってしまうからです。身体に刻み込まれた欲望はなかなか自分の意志の力で離れることができません。六道を輪廻するということは、そのように人が自分の意図と行為(業)によってもたらされた苦楽の環境(果報)に縛られ、その堂々巡りから

抜け出せない状態を譬(ひ)喩(ゆ)的に表現したものといえわかりやすいでしょう。

輪廻の原因である渴愛の煩惱を離れるということの意味は、逆説的に聞こえるかもしれませんが、むしろそれを離れることができない自分を徹底して知ることにあるのだと思います。たとえば親鸞は「凡夫というは、無明煩惱われらが身にみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」と言っています。そのように如実に自分の心を知る智慧が明知なのです。それは自己愛と自己中心的な見方(独断や偏見)を見事に離れているといえましょう。人は煩惱＝欲望を根絶することはできません。できるのは自分を越えた智慧に出会うことによって、自分の煩惱を深く知ることです。そうすることによって人は煩惱が起こってもそれに妨げられない生き方ができるようになり、自分の欲望によって他に害を及ぼすこともおのずと慎まれるようになるのです。

現代人にとって、輪廻を文字通りに人間が死後再生して地獄・餓鬼・畜生といった実体的な生存を繰り返すと考えるのは受け入れがたいことかもしれません。しかし人間が自身の欲望に基づく意図と行為によって苦しみの世界を作り出し、そこから抜け出せないでいるということは、いつの時代にも変わることのない真理です。そのことの譬(ひ)喩(ゆ)として輪廻思想は今日でもなお教訓的な意味を持っているのではないのでしょうか。

[参考文献:金倉圓照「印度古代精神史」、中村元「原始仏教の思想」、早島鏡正「初期仏教における生死観」(日本佛教学會年報 第46号)]



DATA

真宗大谷派 法恩寺住職
益田惠真(1954年 柳川市生まれ)

【法恩寺所在地】

〒857-3101長崎県西海市崎戸町蛸浦郷2122番地

文：公認会計士・税理士 小林達哉

新元号「令和」の典拠として万葉集に収められた「梅花の宴」の序文が頻繁に紹介されました。“初春の令月にして気淑（よ）く風和（やわら）ぎ”とあり、電気も、TVも、ネットも、スマホもない月夜の晩に、われわれ日本人の感性が当たり前のように捉えていたものを感じ取らせてくれますね。この序文を書いたとされる大伴旅人は、奈良時代の初め、当時の太宰府の長官でした。この旅人が、任地の太宰府で妻を亡くしていたところへ赴き、旅人の片腕として長官の家を切り盛りしたと思われる女性があります。旅人の異母妹で、額田王以後最大の女性歌人もいわれる大友坂上郎女（おおとものさかのうへのいらつめ）がその人。この方、西暦730年頃、旅人の大納言選任にともない、旅人に先立って奈良に戻る



折、太宰府から現在の福津市勝浦を經由し、奴山を経て、上記の地図に示す名児山を越えて宗像大社のある宗像市田島方面へ向かう途中で素敵な歌を詠まれました。万葉集巻六に記載されているとのことですよ。

雑歌、作者：坂上郎女、羈旅、福岡、望郷、恋情、天平2年11月

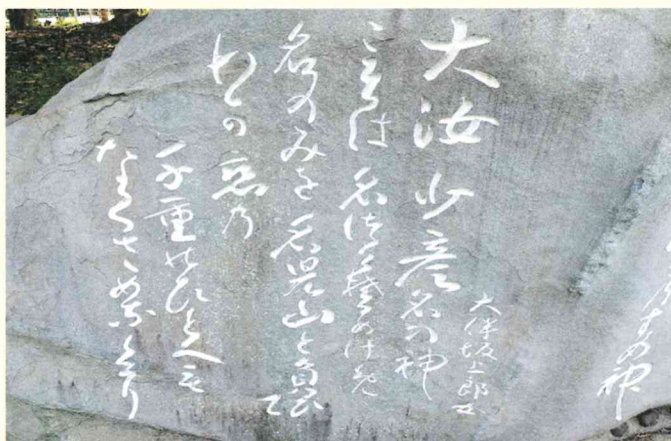
【題詞】冬十一月大伴坂上郎女發帥家上道超筑前國宗形郡名児山之時作歌一首

〔冬の十一月に、大伴坂上郎女（おほとものさかのうへのいらつめ）、帥（そち）の家を発（た）ちて道に上（のぼり）、筑前（つくしのみちのくち）の国の宗像（むなかた）の郡（こほり）の名（な）児（こ）の山（やま）を越ゆる時に作る歌〕
大汝 少彦名の 神こそば名付けそめけめ名のみを 名児山と負ひて 我が恋の千重の一重も慰めなくに
おほなむち すくなくひこなの かみこそば なづけそめけめ なのみを なごやまとおひて あがこひの ちへのひとへも ながさめなくに

大国主と少彦名の神々が名付けたというその名は名児山（ナゴム）といっても、神様が名付けられた割には、私の恋の苦しみを千分の一もなごませてくれない、この峠越えと同じで、苦しいばかりだわ（意識）

“あがこひの ちへのひとへも ながさめなくに”という神様への直球は、若き日の俵万智さんのようだななどという本末転倒ですが、折角万葉集が目された折柄、令和関連で太宰府坂本八幡宮に詣でられたのであれば、もう少し足を伸ばされて福津市までおいでくださいませ、万葉の香りがする古代の空気に触れるのでは、と思います。

嵐出演のCMのお陰で俄然、観光客数の増えた光の道と宮地嶽神社や、百舌鳥・古市古墳群に先立ち、世界遺産登録されました新原奴山古墳群と宗像大社も指呼の距離にあります。



NEW FACE

新たに加わったスタッフをご紹介します。
よろしくお願いいたします!



▶平田 千佳 (令和元年7月入社)

7月より入社いたしました、平田千佳と申します。前職では、病院や高齢者施設で食事の提供を行う仕事をしてまいりました。食べるのが大好きで、休みの日にはネットで見て気になっていたお店に出掛けたりしています。まだ慣れないことばかりですが、一日も早く仕事を覚えて皆様のお役に立てるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。



事務所スタッフ近況

白鳥 真理子

(平成14年入社)

梅雨の季節、蒸し暑いうっとうしい気分を爽やかにしてくれる飲み物といえば…わたしはクリームソーダを思い出します。子どもの頃連れてってもらった喫茶店で飲んだクリームソーダは美味しかったなあ。

朝ドラ「ひよっこ」のみね子も奥茨城から東京へ出てきて、NHKドラマ「昭和元禄落語心中」でお馴染み与太郎こと綿引君と、喫茶店で最初に頼んだ飲み物はクリームソーダでした。横浜市内根岸駅の山手側にあるカフェレストラン・ドルフィン〜ここに集まる昔若者だった人たちは、ノスタルジックな昭和色のソーダ水を注文するそうです。荒井由実さんが、その中を「貨物船がとおる…」と歌ったソーダ水の色はメロン色…

皆さんの夏の思い出にメロン色のソーダ水は登場しますか？

橋本 仁

(平成17年入社)

最近、時間がある時に自作のスパイスカレーを作っています。

最初は、家族から不評だったスパイスカレーも、調理方法やスパイスの量を変える事により、最近ではなかなかの高評価を得られるようになりました。

毎回、同じ味にはなりませんが、それも楽しみながら作っています。

原岡 智子

(平成26年入社)

昨今、酷くなるばかりのもの忘れ。

麦茶を取りに行き行って冷蔵庫を開けたのに、何を取りに来たかを忘れて、何も取らずに冷蔵庫を閉めてしまうのは物忘れではない。

麦茶を取りに行き行って冷蔵庫を開けて、何を取りに来たかを忘れて、結局違うものを取り出してドアを閉めてしまう事がもの忘れだと、ラジオで話していました。

まあ、嫌なことがあっても忘れてしまうのなら、それはそれでいいのかな。

廣田 真智子

(平成23年入社)

今年3月に埼玉で開催された世界フィギュア選手権観戦の合間に箱根まで足を伸ばしてきました。10年ぶりの箱根。箱根初日は大好きなガラスの森美術館、翌日はポーラ美術館と、温泉と芸術を堪能してリフレッシュして来ました。都心の美術館とはまた違った雰囲気、より非日常を感じることができました。

お盆休みのお知らせ

8/14(水)・8/15(木)



上記日程はお盆の為休業させていただきます。
ご迷惑をお掛けしますが、
何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。



編集後記

▶新しい車を運転していたら、前を走る車との距離と、自分の車の速度の関係で警告音が鳴りました。何事かと驚きブレーキのタイミングがコンマ何秒か遅れました。幸い事故にはなりませんでしたが、購入時に警告音を聞かせてくれよと思った、もうすぐ高齢者ドライバーです。7年間にわたり「ステップアップ」の編集を手伝ってくれた古賀さんが6月20日で退職しました。皆様には大変お世話になりました。入れ替わりに大隈君が2年間の充電期間を経て編集スタッフに復帰してくれました。乞うご期待です。(そ)

▶編集後記の場を少し?お借りして、、、私事で恐縮ですが、この度一身上の都合により退職することとなりました。13年と少し、みなさまには本当にお世話になりました。去る者がいうのもなんですが、タチバナの一番の自慢は、代表はじめスタッフみんなが誠実な心を持って仕事に臨んでいるということだと思っています。どうかみなさまこれからもタチバナをよろしく願い申し上げます。関与先のみなさまのますますのご発展、またタチバナのさらなるSTEPUPも祈念しつつ。。。 (コ)

▶「老後2000万円」問題、どう受け止められたでしょうか?国の思惑はどうであれ、将来のことを考える、いいきっかけだったと思います。家の中で過ごすことが多い梅雨の時期、たまには将来のことを考える時間にあてるのもいいかもしれませんね。(な)

▶初代編集員を卒業し、平和な日々を送っていたのですが、(なぜか)この度復帰することとなりました。皆様のお役に立つようなトピックを提供できるよう、アンテナを張っておこうかと思えます。(大)

▶3度も海に行った昨年の夏。今年も新しい水着を買ってしまったので、昨年よりもうんと肥えた体をなんとか短期間で引き締めて夏のシーズンを楽しみたいです。それと、大好きな先輩が退職してしまい、とても寂しいですが、古賀さんの分までしっかり頑張りたいと思います。(菜)

■表紙写真

近年若い世代に人気を集めている柳川市の某所。よくよく周囲を見ると、こんな可愛い表情にも出逢えます。たくさんのひまわりが太陽に向かって大輪の花を咲かせる様は圧巻。植物のエネルギーを感じ取ることができますよ。

